

第 125 回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結注記表

個別注記表

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

オカモト株式会社

上記の事項につきましては、法令及び定款第 16 条の規定に基づき、当社ウェブサイト (<https://www.okamoto-inc.jp/>) に記載することにより株主の皆様提供しております。

連結注記表

【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等に関する注記等】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の状況

連結子会社 20社

主要会社名： オカモト通商(株)、オカモト化成品(株)、シューテックオカモト(株)、ヒルソン・デック(株)、世界長ユニオン(株)、イチジク製薬(株)、船堀ゴム(株)、理研コランダム(株)、岡本(香港)有限公司、Okamoto U.S.A., Inc.、Siam Okamoto Co., Ltd.、Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC、Okamoto North America, Inc.、Okamoto Manufacturing(Thailand)Co., Ltd.、Okamoto Rubber Products Co., Ltd.、岡本貿易(深圳)有限公司、Vina Okamoto Co., Ltd.、広東岡本衛生科技有限公司 他

非連結子会社 5社

主要会社名： ホンゴウサービス(株) 他

(2) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社の状況

持分法適用の非連結子会社 0社

持分法適用の関連会社 2社 森川産業(株)、淄博理研泰山涂附磨具有限公司

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

5社 ホンゴウサービス(株) 他

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社はいずれも、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用手続について特に記載すべき事項

森川産業(株)の決算日は10月31日であり、淄博理研泰山涂附磨具有限公司の決算日は12月31日であります。森川産業(株)は3月31日にて仮決算を行っております。淄博理研泰山涂附磨具有限公司については、連結決算日との差異は3ヶ月以内であり、かつ、その間における取引は、連結計算書類に重要な影響を与えていないため、事業年度の計算書類を基礎としております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、理研コランダム(株)、岡本(香港)有限公司、Okamoto U.S.A., Inc.、Siam Okamoto Co., Ltd.、Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC、Okamoto North America, Inc.、Okamoto Manufacturing(Thailand)Co., Ltd.、Okamoto Rubber Products Co., Ltd.、岡本貿易(深圳)有限公司、Vina Okamoto Co., Ltd.、広東岡本衛生科技有限公司、理研精密器材(蘇州)有限公司、理研香港有限公司の決算日は12月31日であります。13社とも連結決算日との差異は3ヶ月以内であるため、事業年度の財務諸表を基礎とし、連結決算日との間に生じた重要な取引は、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券 時価のあるもの …… 連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの …… 移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として総平均法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

親会社及び国内連結子会社は主として定率法を採用しております。

(リース資産を除く)

(但し、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。)

在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 3～20年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

(リース資産を除く)

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

・所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④ 長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、過去の実績に基づいて支給見込額を計上しております。

③ 建物解体費用引当金

建物解体に関連して発生する支出に備えるため、解体費用等の発生見込額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

①重要なヘッジ会計の方法

1 ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

2 ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
為替予約取引	外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引
金利スワップ取引	借入金の利息

3 ヘッジ方針

主として親会社は、基本的に通常の営業取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

4 ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降、継続して相場変動を完全に相殺すると想定することができるため、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であることを確認することにより、有効性の判定に代えております。金利スワップについては、特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

②退職給付に係る会計処理の方法

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 退職給付見込額の期間帰属方法 | 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準を採用しております。 |
| 2 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 | 過去勤務費用は、その発生額を一括償却しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。 |

③消費税等の会計処理について

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

【表示方法の変更に関する注記】

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の年度末に係る連結計算書類から適用し、連結計算書類に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

【会計上の見積りに関する注記】

固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

有形固定資産	19,907 百万円
無形固定資産	1,215 百万円

(2) 識別した項目に関する重要な会計上の見積りの内容に関する情報

減損の兆候がある資産又は資産グループについて減損損失の認識の判定を行い、減損損失を認識すべきであると判定された場合は帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

回収可能価額は、主として、将来業績見込に基づき算出した将来キャッシュ・フローの現在価値を使用しております。将来業績見込の算定における主要な仮定は、販売数量、販売単価、売上原価率の水準であります。

主要な仮定について、将来の不確実な経済条件の変動の結果によって影響を受ける可能性があり、前提とした状況が変化すれば回収可能価額の算定結果が異なる可能性があります。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定

新型コロナウイルス感染症の事業への影響は、2022年3月期末までには終息せず、2023年3月期の一定の時期に収束するとの仮定のもと、上記固定資産の減損を含む会計上の見積りを行っております。

【連結貸借対照表に関する注記】

1. 担保資産

(1) 建物	205 百万円
(2) 土地	787 百万円
計	993 百万円

2. 「1. 担保資産」に対応する債務額

短期借入金	34 百万円
長期借入金	116 百万円

3. 有形固定資産の減価償却累計額 67,222 百万円

4. 受取手形割引高 245 百万円

5. 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、一部の連結子会社の決算日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

(1) 受取手形	13 百万円
(2) 支払手形	17 百万円

【連結損益計算書に関する注記】

減損損失の内容

当連結会計年度において当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、ソフトウェア、その他	静岡県 榛原郡
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具	茨城県 龍ヶ崎市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、その他	福島県 いわき市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、ソフトウェア、その他	茨城県 牛久市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、その他	千葉県 鎌ヶ谷市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、その他	埼玉県 鴻巣市

(経緯)

当社グループは、農業用フィルム事業、カイロ事業、除湿剤事業、壁紙事業、シューズ事業、PPフィルム事業及び研磨布紙事業の各事業用資産において収益性の低下が生じ、短期的な業績回復が見込まれないと判断したことから、それぞれ「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該各資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（1,398百万円）として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物及び構築物 99 百万円、機械装置及び運搬具 1,138 百万円、土地 5 百万円、建設仮勘定 95 百万円、ソフトウェア 6 百万円、その他 51 百万円であります。また、事業別の主な内訳は壁紙事業 989 百万円と PP フィルム事業 216 百万円であります。

(グルーピングの方法)

当社グループは、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。但し、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産グループの建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、建設仮勘定、ソフトウェア、その他の回収可能価額は使用価値と正味売却価額のいずれか高い方の金額を使用しており、使用価値においては将来キャッシュ・フローが見込めないため、回収可能価額を零として評価しております。

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数
普通株式 19,599,367株

2. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	939	50.00	2020年3月31日	2020年6月29日
2020年11月6日 取締役会	普通株式	935	50.00	2020年9月30日	2020年12月1日

3. 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	935	50.00	2021年3月31日	2021年6月30日

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、必要な資金については主に銀行借入や社債発行により調達しております。デリバティブは、通貨関連では外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図り、また金利関連では借入金利率の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金と電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、与信管理規程に従い、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の与信状況を一定の間隔で把握する体制としております。また、海外取引において発生する外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用して一定の範囲内でヘッジしております。投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に取引上の関係を有する企業の株式であります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。また、その一部には、商品仕入に伴う外貨建営業債務があり、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用して一定の範囲内でヘッジしております。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(原則として5年以内)は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、為替予約取引については海外取引担当部門が、金利スワップ取引については財務担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

なお、取引相手先は高格付けを有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2参照）。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	29,687	29,687	—
(2) 受取手形及び売掛金	18,856	18,856	—
(3) 電子記録債権	7,323	7,323	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	17,907	17,907	—
資産計	73,775	73,775	—
(1) 支払手形及び買掛金	19,626	19,626	—
負債計	19,626	19,626	—
デリバティブ取引			
為替予約	△11	△11	—
金利スワップ	—	—	—
デリバティブ取引計	△11	△11	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

為替予約は、取引先金融機関から提示された価格等に基づいて時価を算定しております。
為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされた売掛金または買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金または買掛金の時価に含めて記載しております。
金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされた借入金と一体として処理しております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 2,832 百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) デリバティブ取引は債権・債務を差し引きした合計で表示しております。

【賃貸等不動産に関する注記】

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、東京都その他地域及び海外において保有資産の有効活用の一環として土地または土地建物を賃貸しております。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位:百万円)

連結貸借対照表計上額	当連結会計年度末の時価
3,566	6,793

(注)1. 連結貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)と社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づいて算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

【1株当たり情報に関する注記】

(1) 1株当たり純資産額	3,609.27 円
(2) 1株当たり当期純利益	304.04 円

【重要な後発事象に関する注記】

(自己株式の消却)

当社は、2021年5月13日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却を行うことを決議いたしました。

1. 消却する株式の種類

当社普通株式

2. 消却する株式の総数

500,000 株

3. 消却予定日

2021年 5月 31日

4. 消却後の発行済株式総数

19,099,367 株

個別注記表

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

その他有価証券 時価のあるもの ……

移動平均法による原価法

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの ……

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 4～17年

(2) 無形固定資産

(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

・所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、過去の実績に基づき支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準を採用しております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生額を一括償却しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により翌事業年度から費用処理しております。

4. その他計算書類作成のための重要な事項

(1) 重要なヘッジ会計の方法

I. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

II. ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
為替予約取引	外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引
金利スワップ取引	借入金の利息

III. ヘッジ方針

当社は、基本的に通常の営業取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

IV. ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降、継続して相場変動を完全に相殺すると想定することができるため、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であることを確認することにより、有効性の判定に代えております。金利スワップについては、特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理方法と異なっております。

(3) 消費税等の会計処理について

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

【表示方法の変更に関する注記】

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る計算書類から適用し、計算書類に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

【会計上の見積りに関する注記】

固定資産の減損

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

有形固定資産	16,336百万円
無形固定資産	1,060百万円

(2) 識別した項目に関する重要な会計上の見積りの内容に関する情報

減損の兆候がある資産又は資産グループについて減損損失の認識の判定を行い、減損損失を認識すべきであると判定された場合は帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

回収可能価額は、主として、将来業績見込に基づき算出した将来キャッシュ・フローの現在価値を使用しております。将来業績見込の算定における主要な仮定は、販売数量、販売単価、売上原価率の水準であります。

主要な仮定について、将来の不確実な経済条件の変動の結果によって影響を受ける可能性があり、前提とした状況が変化すれば回収可能価額の算定結果が異なる可能性があります。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定

新型コロナウイルス感染症の事業への影響は、2022年3月期末までには終息せず、2023年3月期の一定の時期に収束するとの仮定のもと、上記固定資産の減損を含む会計上の見積りを行っております。

【貸借対照表に関する注記】

1. 輸出荷為替手形割引高	119 百万円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	
(1) 短期金銭債権	6,363 百万円
(2) 短期金銭債務	884 百万円
(注) 貸借対照表に区分表示したものを除く	
3. 有形固定資産の減価償却累計額	56,856 百万円

【損益計算書に関する注記】

1. 関係会社との取引による取引高	
(1) 関係会社に対する売上高	20,494 百万円
(2) 関係会社からの仕入高	6,029 百万円
(3) 関係会社との営業以外の取引高	638 百万円

2. 減損損失

減損損失の内容

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、ソフトウェア、その他	静岡県 榛原郡
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具	茨城県 龍ヶ崎市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、その他	福島県 いわき市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、建設仮勘定、ソフトウェア、その他	茨城県 牛久市
事業用資産	土地	千葉県 鎌ヶ谷市

(経緯)

当社は、農業用フィルム事業、カイロ事業、除湿剤事業、壁紙事業、シューズ事業及びPPフィルム事業の各事業用資産において収益性の低下が生じ、短期的な業績回復が見込まれないと判断したことから、それぞれ「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該各資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,324百万円)として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物及び構築物75百万円、機械装置及び運搬具1,113百万円、土地5百万円、建設仮勘定80百万円、ソフトウェア6百万円、その他41百万円であります。また、事業別の主な内訳は壁紙事業989百万円とPPフィルム事業216百万円であります。

(グルーピングの方法)

当社は、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。但し、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産グループの建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、建設仮勘定、ソフトウェア、その他の回収可能価額は使用価値と正味売却価額のいずれか高い方の金額を使用しており、使用価値においては将来キャッシュ・フローが見込めないため、回収可能価額を零として評価しております。

【株主資本等変動計算書に関する注記】

当事業年度末における発行済株式の総数	
普通株式	19,599,367株
当事業年度末における自己株式の種類及び総数	
普通株式	859,677株

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産		(単位:百万円)
賞与引当金		276
賞与引当金に係る法定福利費		40
未払法人事業税等		107
たな卸資産評価損		35
退職給付引当金		2,055
吸収分割による引継資産評価差額		4
厚生年金基金解散に伴う加入員補填額		106
減損損失		1,268
未払役員退職慰労金		20
有価証券評価損		36
繰延ヘッジ損益		3
その他		151
繰延税金資産	小計	<u>4,107</u>
評価性引当額		<u>△ 581</u>
繰延税金資産	合計	<u>3,526</u>
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金		△ 91
特別償却準備金		△ 21
合併時受入土地評価益		△ 1,614
その他有価証券評価差額金		<u>△ 3,693</u>
繰延税金負債	合計	<u>△ 5,420</u>
繰延税金負債	純額	<u>△ 1,894</u>

【関連当事者との取引に関する注記】

関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
子会社	オカモト化成品(株)	(所有) 直接 100%	当社製品の販売 役員の兼任	当社産業資 材関連製品 の販売	4,698	売掛金	1,054
子会社	Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC	(所有) 間接 100%	当社製品の製造 役員の兼任	当社産業資 材関連製品 の製造・販売	4,015	売掛金	3,384
子会社	理研コランダム(株)	(所有) 直接 50.15%	役員の兼任	自己株式の 取得	422	—	—
関連会社	森川産業(株)	(所有) 直接 20.83% 間接 2.08% (被所有) 0.73%	当社製品の販売	当社医療・日 用品関連製 品の販売	3,015	売掛金	330

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
当社製品の販売については、一般取引条件と同様に決定しております。
3. 自己株式の取得は相対取引であり、取引日の東京証券取引所における当株式数の終値に株数を乗じた金額であります。

【1株当たり情報に関する注記】

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 3,103.09円 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 245.92円 |

【重要な後発事象に関する注記】

(自己株式の消却)

当社は、2021年5月13日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却を行うことを決議いたしました。

- 消却する株式の種類
当社普通株式
- 消却する株式の総数
500,000株
- 消却予定日
2021年5月31日
- 消却後の発行済株式総数
19,099,367株